

社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、健やかに育成されるとともに、自立した生活を地域社会において営み、社会参加の機会を確保することができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設の経営

(ロ) 母子生活支援施設の管理経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 身体障害者社会参加支援施設の管理経営

(ロ) 障害福祉サービス事業

(ハ) 特定相談支援事業

(ニ) 障害児相談支援事業

(ホ) 障害児通所支援事業

(ヘ) 老人居宅生活支援事業

(ト) 妊産婦等生活援助事業

(チ) 障害者就業・生活支援センター事業(生活支援等事業)

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性確保を図り、もって地域福祉の推進を図るものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対し、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するよう努めるものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の主たる事務所を愛媛県松山市道後町二丁目12番11号に置く

。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上8名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任等委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任等委員会において行う。

2 評議員選任等委員会は、監事1名、外部委員2名、事務局員1名の合計4名の委員（以下「選任等委員」という。）で構成する。

3 選任等委員は、理事会の決議によって選任する。

4 選任等委員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

5 補欠として選任された選任等委員の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

6 評議員の選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行うものとするほか、評議員選任等委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

7 評議員の選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、該当者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を選任等委員に説明しなければならない。

8 評議員選任等委員会の決議は、選任等委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、各年度の総額が320,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として

支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 基本財産の処分
- (7) 社会福祉充実計画の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集等)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

3 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選により定める。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。この場合において、理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

（役員の定数）

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上7名以内
 - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とし、理事長以外の理事のうち1名を副理事長、他の1名を常務理事とすることができる。
 - 3 前項の副理事長及び常務理事をもって社会福祉法（昭和26年法律第45号。以下「法」という。）第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

（役員の選任）

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長並びに副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、副理事長及び常務理事は、理事会において別に定めるところによりこの法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長並びに副理事長及び常務理事は、毎会計年度に4月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 18 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 19 条 理事及び監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事及び監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事及び監事は、第 15 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第 20 条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第 21 条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(職員)

第 22 条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長その他の重要な業務を行う職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第 5 章 理事会

(構成)

第 23 条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第 24 条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては、理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長並びに副理事長及び常務理事の選定及び解職
(招集等)

第 25 条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長又は常務理事が理事会を招集する。

3 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。

(決議)

第 26 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 27 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 6 章 資産及び会計

(資産の区分)

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 土地

ア 愛媛県東温市田窪字外分2 1 1 9 番1 所在のしげのぶ清流園及びしげのぶ清愛園の敷地 (1 6 , 3 4 2 . 9 9 平方メートル)

イ 愛媛県松山市道後今市9 9 5 番所在の道後ゆう及びどうご清友寮の敷地 (3 , 2 6 6 . 2 9 平方メートル)

ウ 愛媛県松山市道後町二丁目1 0 0 5 番1 所在のほほえみ工房ぱれっと道後の敷地 (1 , 7 1 2 . 9 4 平方メートル)

(2) 建物

ア 愛媛県東温市田窪字外分2 1 1 9 番地1 所在の鉄筋コンクリート造か

わら葺・陸屋根 2 階建しげのぶ清流園及びしげのぶ清愛園の建物 1 棟
(6, 441.34 平方メートル)

イ 愛媛県東温市田窪字外分 2 1 1 9 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造陸
屋根平家建しげのぶ清流園及びしげのぶ清愛園の機械室 1 棟 (42.
00 平方メートル)

ウ 愛媛県東温市田窪字外分 2 1 1 9 番地 1 所在の鉄骨造合金メッキ鋼板
葺平家建しげのぶ清愛園農作業棟 1 棟 (309.20 平方メートル)

エ 愛媛県松山市道後今市 9 9 5 番地所在の鉄筋コンクリート造陸屋根ス
レート葺 2 階建道後ゆうの建物 1 棟 (1, 506.10 平方メート
ル)

オ 愛媛県松山市道後今市 9 9 5 番地所在の鉄筋コンクリート造スレート葺
平家建道後ゆうの車庫 1 棟 (39.60 平方メートル)

カ 愛媛県松山市道後町二丁目 1 0 0 5 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造ス
レート葺平家建ほほえみ工房ぱれっと道後の建物 1 棟 (557.2
5 平方メートル)

キ 愛媛県松山市道後今市 9 9 5 番地所在の鉄筋コンクリート造スレート葺
平家建どうご清友寮の建物 1 棟 (504.34 平方メートル)

ク 愛媛県松山市下伊台町 1 0 4 8 番地 2、1 0 4 7 番地、1 0 5 8 番地 2
、1 0 4 8 番地 2 先所在の鉄骨造陸屋根 2 階建福祉工房いだい清風園の
建物 1 棟 (1, 575.00 平方メートル)

ケ 愛媛県松山市下伊台町 1 0 4 8 番地 2、1 0 4 7 番地、1 0 5 8 番地 2
、1 0 4 8 番地 2 先所在の鉄筋コンクリート造陸屋根平家建福祉工房い
だい清風園の機械室 1 棟 (11.80 平方メートル)

コ 愛媛県松山市下伊台町 1 0 4 8 番地 2、1 0 4 7 番地、1 0 5 8 番地 2
、1 0 4 8 番地 2 先所在の鉄骨造スレート葺平家建福祉工房いだい清風
園の作業棟 1 棟 (404.80 平方メートル)

(3) 現金 10,000,000円

3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第36条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財
産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品については、すみやかに基本財産と
するため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第29条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、愛媛県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、愛媛県知事の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第30条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

（事業計画及び収支予算）

第31条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書

類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第36条 この法人は、法第26条の規定により、利用者の自立及び社会参加の支援等を目的として、次の事業を行う。

- (1) 障害者就業・生活支援センター事業の受託運営
- (2) 愛媛県障がい者スポーツ協会に関すること
- (3) この法人の目的達成のために必要な事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の過半数の同意を得なければならない。

第8章 解散

(解散)

第37条 この法人は、法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第38条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、愛媛県に帰属する。

第9章 定款の変更

（定款の変更）

第39条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、愛媛県知事の認可（法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を愛媛県知事に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

（公告の方法）

第40条 この法人の公告は、社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

（施行細則）

第41条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人設立後遅滞なく、この定款に基づき、役員の選任を行うものとする。

理事長	白	石	春	樹
副理事長	篠	崎	正	広
理 事	越	智	伊	平
理 事	宇	都	宮	孝
理 事	日	野		泰
理 事	戒	田	敬	之
理 事	五	島	一	明
理 事	薬	師	寺	真
理 事	堀	田	鶴	好
理 事	田	中	富	一
監 事	光	宗		勝
監 事	片	岡	俊	明

2 この定款は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この定款は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この定款は、愛媛県知事の認可のあった日（平成 30 年 7 月 17 日）から施行する。

附 則

この定款は、愛媛県知事の認可のあった日（令和 5 年 4 月 14 日）から施行する。

附 則

この定款は、愛媛県知事の認可のあった日（令和 6 年 3 月 29 日）から施行する。